

Photo = Untitled (Your Materials #282-292), 2023 © Gottingham
Image courtesy of Nippon Design Center and Studio Xxingham



入場料 (税込) = 一般 1,400円、大学生 800円
高校生 500円、中学生以下無料

※ 各種割引、オンラインチケットの
購入についてはウェブサイトをご覧ください。

所在地 = 〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-6
東京ミッドタウン ミッドタウン・ガーデン
Tel = 03-3475-2121

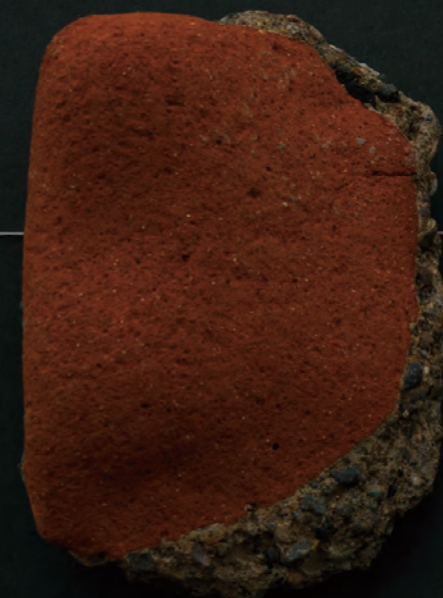
アクセス = 都営地下鉄大江戸線「六本木」駅・
東京メトロ日比谷線「六本木」駅・
東京メトロ千代田線
「乃木坂」駅より徒歩5分

Admission = General ¥1,400
University students ¥800
High school students ¥500
Junior high school students and
under may enter for free
*Please refer to our website
for more information
on discounts and online tickets.

Address = Midtown Garden,
Tokyo Midtown,
9-7-6 Akasaka, Minato-ku,
Tokyo 107-0052 JAPAN
Access = 5 min. walk from Roppongi station
(Toei Oedo Line / Tokyo Metro Hibiya Line)
and Nogizaka station
(Tokyo Metro Chiyoda Line)



Material, or



21_21 DESIGN SIGHT 企画展
吉泉 聡 ディレクション
「Material, or」
21_21 DESIGN SIGHT
Exhibition "Material, or"
Directed by Satoshi Yoshizumi

主催 = 21_21 DESIGN SIGHT、
公益財団法人 三宅一生デザイン文化財団
後援 = 文化庁、経済産業省、
港区教育委員会
特別協賛 = 三井不動産株式会社
印刷協力 = 株式会社山田写真製版所

2023.7.14 Fri.
— 11.5 Sun.

会場 = 21_21 DESIGN SIGHT ギャラリー1&2
開館時間 = 10:00-19:00 (入場は18:30まで) 休館日 = 火曜日

Venue = 21_21 DESIGN SIGHT Gallery 1&2
Opening Hours = 10:00-19:00 (Entrance until 18:30) Closed on Tuesdays



www.2121designsight.jp

上記内容は予告なしに変更される場合があります。ご来場の際は、事前にウェブサイトで最新情報をご確認ください。
Above information may change without notice.
Please see the latest information on our website before your visit.

21_21

小枝を手にすれば「バキッ」っと、折ってみたいくなる。
 どろどろの泥を手にすれば「ベター」っと、何かに塗ってみたいくなる。
 大きな石ころを手にすれば、何かにぶつけてみたいくなる。そして「バカッ」っと、割れる。

そんなマテリアルとの原始的な関わりは、
 人とマテリアルとの対話のようです。
 人間はそうして地球資源との対話を積み重ね、
 マテリアルから人工物としての
 何かをつくり出してきました。

この展覧会では、マテリアルに「素材」という
 意味が生まれる方法の多様性を入り口に、
 人間以外の多様なものとの
 絡まり合いの中でのマテリアルの捉え方、
 そしてそのデザインの可能性について考えます。

吉泉 聡

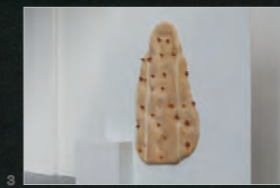
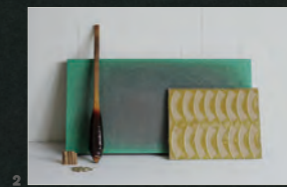
展覧会ディレクター = 吉泉 聡 (TAKT PROJECT)
 企画協力 = 石倉敏明、亀井 潤
 グラフィックデザイン = 三澤 遥 (日本デザインセンター)
 会場構成 = 中村竜治 (中村竜治建築設計事務所)
 テキスト = 山田泰巨
 コピーライティング = 磯目 健 (日本デザインセンター)

参加作家 = ARKO、青田真也、ACTANT FOREST、
 イ・カンホ、上田勇児、遠藤 薫、太田 翔、小野 菜、金崎将司、
 亀井 潤 (Amphico)、ソフィア・コラー、TAKT PROJECT、
 DRIFT、永沢碧衣、似里 カ、畑中正人、
 ビート・オックスフォード、Formafantasma、BRANCH、
 本多沙映、三澤 遥+三澤デザイン研究室、吉田勝信、他
 参加企業 = Cruz Foam、
 村山耕二+UNOU JUKU by AGC株式会社、他

21_21 DESIGN SIGHT

ディレクター = 佐藤 卓、深澤直人
 アソシエイトディレクター = 川上典李子
 プログラム・マネージャー = 中洞貴子
 プログラム・オフィサー = 安田萌音

普段の生活で接する「もの」のほとんどは、人によってデザインがなされています。本展ディレクターの吉泉 聡は「もの」がつくられる過程には、この世界に存在するありとあらゆる「マテリアル」が「素材」として意味づけられるプロセスが含まれていると考えます。つまり、特定の意味を持たなかった「マテリアル」が、人や生物との関わりの中で「もの」へとつながる意味を付与され「素材」となるのです。
 本展覧会では、人間が営んできた自然との多様な関わり方をアートやデザイン、人類学の観点から紐解くと同時に、最先端のマテリアルサイエンスが我々の感覚をどのようにアップデートしてくれるのかを紹介します。現代社会において分断されてしまった私たちとマテリアルのつながりを、地球をめぐる果てしなく広大な物語から読み解くことで、マテリアルの織り成す新しい世界を感じるきっかけとなれば幸いです。



1. ACTANT FOREST 「Comorle BLOCK」
2. 青田真也 「よりそうかたち」
3. 太田 翔 「According to the Grain: Coat rack」
4. 金崎将司 「山びこ」
5. DRIFT 「MATERIALISM, LIGHT BULB」 (撮影: Ronald Smits)
6. 本多沙映 「Cryptid」 (撮影: 林 雅之)
7. Formefantasma 「Bladders Water Containers」 (撮影: Lulua Zaneni)
8. 吉田勝信 「もし、石炭が燃えなかったとしたら (仮題)」
9. イ・カンホ 「Blue Sofa」 Image courtesy of Salon 94 Design (New York)

メインビジュアル = 三澤デザイン研究室

Most of the objects we encounter in our everyday lives were designed in some way or another. Satoshi Yoshizumi, the exhibition director, says that the processes by which objects are

made include processes by which raw materials become medium for the purpose of creation. What he means is that a raw material, which did not have a particular meaning beforehand, is assigned meaning relating it to an object and becomes a medium through its relationship to people or other living things.

Deploying cultural-anthropological perspectives to tease out how humanity has manipulated nature, we identify how to revive our sensitivity towards raw materials using recent developments in technology and material science. The Exhibition seeks to rediscover and reinterpret the human relationship to raw material. It traces this across the vast and endless story of the Earth. We provide an opportunity for visitors to rethink a world in which life is interwoven with raw material.

